

北海道大学学術成果コレクション(HUSCAP)

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp>

「北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP)」は、北海道大学所属研究者 (大学院生を含む) の研究論文, 学会発表資料, 教材等を図書館資料として電子的に保管し後世へ継承するとともに, インターネットを通じて全世界の研究者に提供する電子コレクションであり, 平成18年4月より公開した。



HUSCAP は, 平成18年4月1日現在, 4,094文献 (本学研究紀要13タイトルを含む) を収録しており, 実験運用期間 (平成17年7月20日~平成18年3月31日) を通じた文献総ダウンロード数は63,092回となっている。

皇後のビスケット——集団疎開学童ニ対シ御激励ノ恩召——

遠見 勝亮 (北海道大学)

はじめに

政府は、1944年8~9月、東京都港区、横浜市、名古屋市、大阪市などの国民学校初等科児童約40万人を農山村部へ集団疎開させた。皇後は、これらの児童についてビスケットと「御歌」(つきのせをせおふき身そたくましくおし頃のひよこにうつつりて)を「下賜」した。

ビスケットと「御歌」にふれている回想記録は少なくない。たとえば、『不忘山』は、「御歌」と印刷してある紙袋の写真と「御歌」を載せ、「皇后陛下より全国の疎開学童にビスケットが贈られた。1袋にビスケットが12枚くらい入っていた」との説明を付している(1)。

意見の限り、先行研究が明らかにしているのは以下の諸点である。

児童読み物作家・山中恒は、文部大臣・東京都長官の「建話」、文部省通達、「御仁慈」を伝える新聞報道をあげ、ビスケットは明治産業 (明治製菓業) 川崎工場が製造し、1袋25g (93.75グラム) であったことを教えてくれる(2)。東京都済美国民学校 (浅草区、現台東区) 5年生として宮城県刈田郡白石町へ集団疎開した佐々木直樹は、「御歌」は「学童集団疎開八重要都市ノ防衛力ヲ強化スル共ニ二次的ヲ荷フ國民ノ基礎的練成ヲ全クシ聖戦目的ノ完遂ニ寄与スル」という「学童集団疎開ニ於テ教育要綱」(文部省、1944年11月16日)の趣旨を読み込んだものであると述べている。また、ビスケットは1袋25個入りで、うち6個を疎開先国民学校児童1人につき3個宛分けるよう指示した「浅草区国民学校長会議指示事項」を掲げている(3)。子どもはビスケットを重量ではなく数で数えたはずであるから——実際、回想はすべて受け取った個数をあげている——1袋25個入りという指標は格別に重要な意味をもっている。

なお、『明治製菓の歩み 創立から50年』(明治製菓株式会社編・発行、1968年、56頁)は、「下賜」ビスケット製造についてはふれるところがない。

全国疎開学童連絡協議会「学童疎開の記録帳」(1994年8月15~20日、丸善日本橋店)に「下賜」ビスケットが展示された(4)。私はこのとき初めて現物を見たのである。ほぼ半分が欠けたビスケットは、真綿にくるまれて小さな桐箱に収められていた。その後、ビスケットは「東京大空襲——戦時下の市民生活」展(1995年2月4日~3月19日、東京都江戸東京博物館)にも展示された。保存されていた経緯は以下のようなものである。

世田谷区太子堂国民学校三年生で、長野県浅間温泉の集団疎開に参加していた西下淑子さんは、中学受験で東京した近所の六年生に下賜のビスケットを託した。家では母がこれを受けとり、家族に一枚ずつ渡した。当時一歳だった姉の広子さんは半分に分って食べたが、姉が不機嫌でたまたまなくなり、一片を桐箱に入れて保管した(5)。